

（午後2時10分 再開）

○議長（中本正人君）休憩前に引き続き、会議を開きます。

日程に従い、一般質問を行います。

順番4、4番 今城君。

〔4番（今城敏仁君）登壇〕

○4番（今城敏仁君）こんにちは。一番眠たい時間でございます。眠たい方は眠ってください。

2016年もいよいよあと4週間余りでございます。この2016年、皆さんはどんな年でございますか。私は66年間生きてきて、今年ほど寂しい年はなかったです。友達、友人、それから家族、そして、きょうはまたこれが終わったら紀美野町へお通夜行くんですけども、友人の奥さんが長い間乳がんと闘って、おととい亡くなりまして、本当に寂しいことばかりでございました。

そんな中でも、今年は3月31日に初孫が生まれまして、本当にうれしかったです。3月の29日に入院しまして、橋本市民病院で48時間以上、難産でございましたけれども、3月31日、年度末に生まれまして、病院管理者には、先生、それからスタッフ、本当にありがとうございました。

自分の子どものときは家でいてなくて、外へ出ていったら朝帰ってきて、家内には亭主元気で留守がいいと、そんな生活を送っておりました。でも、孫がおぎゃあと生まれたときは本当に感動いたしました。

今の時代では、私とても結婚できないなど。旦那を見ておると、よくイクメン、イクメンと言いますが、本当に夫婦で子どもを育てていくというのが、僕にはできへんだ

なというふうに思っております。

本当に感動したわけでございますけども、感動といいますと先月の26日ですか、梅田の四季劇場で今の「キャッツ」を見に行っていました。見られた方ございますか。このミュージカルのキャッツ、ぜひまた見ていただきたいというふうに思います。友人の娘さんがスタッフで出てますので、ボンバルリーナという役で出てます。かなり歌って踊って、そして独唱してと。2時間本当に素晴らしい舞台でございました。

ちょっと彼女のことを紹介しますと、彼女は、この彦谷にございます、きのくに子どもの村学園で小学校、中学校を出まして、その後、宝塚の音楽学院に入りまして、その後、宝塚歌劇団で6年舞台で頑張ってくれてまして、3年前ですか、退団いたしまして、いろいろと和歌山県の関係のお仕事等も今やられて、多分市長、山田議長のときに、議会開会のときに君が代から始まったこと、覚えてらっしゃいますか。12月の。あのときの君が代を独唱したのが彼女でございます。その後、去年のわかやま国体でもいろいろな形で役をいただいて、県のために、きいちゃんダンスも彼女のお母さんが振り付けて、彼女がいろいろと普及に努めてくれました。

そんなこんなで、たまたまご縁があって私もこの彦谷にある、きのくに子どもの村学園でちょっとかかわらせていただいておりますので、彼女の宝塚に入ったときからいろんな苦労を知ってございますので、本当に血のにじむ訓練、それとショービジネスのトップでそうやって舞台を張るといというのは、本当に並大抵の苦労やないというのをよく知っておりますので、

本当に頑張ってくれたなということで、自分もいろいろ今年は寂しかったんですけども、元気をいただいていたので、元気を持って一般質問させていただきたいと思います。

そして、もう一つ付け加えますと、もう一人、ちょうど今頑張ってくれてる彼女、それともう一人、三石台でいてました竹内君という、彼も小学校、中学校、高校をきのくに子どもの村学園出て大阪芸大へ行かまして、その後、劇団四季に入りまして、今、名古屋で公演されてます「リトルマーメイド」の主役をやっています。

そんなこんなで、知ってる人が頑張ってくれてますので、自分も頑張らなあかんというふうに元気をもらってきましたので、それでは議長のお許しを得ましたので、通告に従いまして一般質問をさせていただきます。

大きい項目1番といたしまして、橋本創生総合戦略について。

本市は、平成18年3月1日に旧橋本市と旧高野口町が合併し、新しい橋本市として平成20年3月に策定された橋本市長期総合計画に基づき、この10年間を歩んでまいりました。が、少子高齢化の波は加速度的に進んでいます。このままで推移しますと、45年度の2060年には約3万4,000人まで減少すると予想されます。この急激な少子高齢化の進展に的確に対応し、人口減少に歯どめをかけるために、国は平成26年11月28日、まち・ひと・しごと創生法を制定、施行しました。この法律は自治体の実情に応じた、まち・ひと・しごと創生に関する基本的な計画を策定するように求めるものでした。

本市としては、この機会を好機ととらえ総合戦略を策定し、2060年に4万7,000人の人口を維持することを目標としています。基本目標として、1、仕事をつくり安心して働けるようにする。2、橋本市への新しい人の流れ

をつくる。3、若い世代の結婚、出産、子育ての希望をかなえる。4、安全・安心な暮らしを支えるまちをつくる。この四つの基本目標を掲げ、具体的なスケジュールと各施策に対するKPIを設定し、PDCAサイクルにより効果の検証、改善を行っておりますが、27年10月30日から始まった5カ年計画についてお尋ねします。

小項目の1、橋本市への新しい人の流れをつくるのに、どのように取り組んでおられますか。2年が過ぎて具体的に結果はどうなっていますか。2、ふるさとづくりの推進。2年が過ぎて具体的に結果はどうなっていますか。

大きい項目の2、独居老人問題について。

私の住む高野口の名倉において、ここ数年で何人かの方々が孤独死で亡くなられています。人と人との関係が希薄になっているのも現実ですが、当局としては、このような問題にどう取り組んでおられますか。

以上、二点の壇上からの質問を終わります。

○議長（中本正人君）4番 今城君の質問項目1、橋本創生総合戦略に対する答弁を求めます。

政策企画室長。

〔政策企画室長（上田力也君）登壇〕

○政策企画室長（上田力也君）橋本創生総合戦略の進捗状況及び成果等にお答えをいたします。

まず、一点目の、橋本市への新しい人の流れをつくるのに、どのように取り組んでいるか。また、2年が過ぎて、具体的に結果はどのようになっているかとのおたただしですが、橋本市への新しい人の流れをつくるという基本目標に対しては、移住・定住の促進と交流人口の増加の二つを基本的な方向として各種事業に取り組んでいます。

まず、移住・定住の促進については、わか

りやすい移住情報の提供、シティセールス、住みやすい環境づくりの三つの観点から事業を進めることとし、具体的な取り組みとしては、まず、今年4月に従来の商工観光課をシティセールス推進課に変更し、定住促進係を新設しました。橋本市に移住を希望される方々に対する情報提供をワンストップで提供できるよう、今年9月に移住コンシェルジュ2名を課内に配置したほか、大阪や東京での移住相談会への参加、移住情報サイトの充実、LINE@を利用したプッシュ型の情報発信など、新しい取り組みを進めています。

また、従来に引き続き、市外から転入して新築住宅を取得する場合に補助金を交付したり、金融機関と連携して住宅ローンの金利優遇を実施したりしているほか、今年度は空き家調査を実施しており、この結果を受けて空き家の利活用を促進し、移住・定住の促進につなげていきたいと考えています。

これらの事業の目標値としては、社会動態による人口増減を平成22年から平成26年までの5年間の実績マイナス1,384人に対して、平成27年から平成31年までの5年間の増減をマイナス615人にするとしています。これまでの実績として、1年間の社会増減を見ると、平成26年がマイナス267人に対して、平成27年はマイナス365人となっており、目標の達成は厳しいのが実情です。

しかし、これらの事業の成果はすぐに現れるものではなく、子育て環境や住環境、福祉環境など総合的な暮らしやすさが求められていると考えていますので、今後も総合戦略評価委員会や審議会の皆さまのご意見をいただき、見直し・改善を行いながら各種事業を進めていきたいと考えています。

次に、交流人口の増加については、観光の振興、スポーツツーリズム、グリーンツーリズム及び学生・外国人の交流の観点から事業

を進めることとしています。

具体的には、外国人向け観光パンフレットの作成、橋本駅前への多言語表示可能な電光掲示板の設置によりインバウンド観光への対応を進めたほか、駅前でのにぎわいイベントの実施、グリーンツーリズムとして通い型の就農事業などを行っています。

これらの事業では、観光入込客数を平成26年度の実績約96万人から平成31年に約130万人とすることを目標としており、平成27年の実績は約122万人となっています。ただし、平成27年は、国体の開催や高野山開創1200年といった特別な要因があり、このように大幅に増加していると思われま

す。今後も来年度に設立が予定されている広域観光ビジネス共同体（DMO）とも連携を図るなど、官民が連携して交流人口の増加に取り組み、目標値を達成していきたいと考えています。

次に、二つ目の項目である、ふるさとづくりの推進についてお答えします。

ふるさとづくりの推進は、総合戦略の基本目標である、安全・安心な暮らしを支えるまちづくりを進めるための基本的方向の一つとして位置付けており、ふるさと学習副読本の作成、高野参詣道シンポジウムの開催などを内容としております。

ふるさと学習副読本については、昭和55年に第1版を発行した「のびゆく橋本市」を順次改訂しながら、現在授業で活用しています。この「のびゆく橋本市」は、小学校3・4年生を対象としたものですが、対象学年を拡大し、中学校3年生まで使用できる新たな副読本の作成を現在進めており、今年度中に完成予定となっています。この新たな副読本については、PDFデータで作成し、各学校に配置しているタブレット端末を用いて授業をする予定で、現在カリキュラムの検討をしてい

るところです。具体的な成果はこれからとなりますが、ふるさと学習にあたっては、この副読本とあわせてマップを活用した授業を予定しており、ふるさとに誇りと愛着を持ってもらい、子どもたちにもっと橋本市を好きになってもらえるよう取り組んでいきたいと考えています。

次に、高野参詣道シンポジウムにつきましては、昨年12月に黒河道に関するシンポジウムを開催し、目標としていた200名を大幅に超える約500名の皆さまに参加いただきました。また、黒河道のマップも作成するなど、今年10月に世界遺産に追加登録された黒河道のPRに努めており、先日12月4日にも世界遺産追加登録記念式典及び歴史講演・座談会が開催されたところです。

今後とも市民の皆さんに、ふるさと橋本市に誇りを持ってもらえるよう取り組むとともに、市外へもアピールしていきたいと考えていますので、ご協力をお願いいたします。

○議長（中本正人君）4番 今城君、再質問ありますか。

4番 今城君。

○4番（今城敏仁君）ありがとうございます。

2060年に人口4万7,000人の人口を確保するという目標で動いておるんですけども、ここで市長が、耕地を耕し、種をまき、芽を育てるというふうに書かれてございます。今、どの段階でございますか、室長。

○議長（中本正人君）政策企画室長。

○政策企画室長（上田力也君）今現在、種をまいているという、こういう時期であると考えております。

○議長（中本正人君）4番 今城君。

○4番（今城敏仁君）ありがとうございます。

二つを軸にして、各課でいろいろと事業をしていただいておりますので、これは

関連質問で、各課のほうの方からお答えをいただけると思いますが、シティセールスということで、橋本市を売り出すということでいろいろ活動されておると思うんですけども、実際どのような活動をされて、どのような今、結果を得ておるかというのをおわかりでございますか。これは経済部長のほうですか。

○議長（中本正人君）経済推進部長。

○経済推進部長（笠原英治君）先ほど政策企画室長から壇上でも答弁ありましたが、本年4月に商工観光課がシティセールス推進課に変わって、そこに定住促進係、さらに、その中に移住専門のコンシェルジュを2人を置いていただきました。

具体的にもう少し詳しく言いますと、東京・大阪で移住相談会であったり、フェアに出展しましたところ、11月末の実績で、フェアによる相談件数は28組、電話・窓口による相談につきましては現在まで18組ありました。

情報発信の取り組みとしましては、はしもと暮らし応援サイトを更新しまして、先輩移住者のインタビューをわかりやすく掲載しまして橋本の暮らしを紹介しております。月平均で220件のアクセスが今のところあります。

それ以外にも、南海電鉄と連携して、あやの台の住宅情報ホームページで市長のインタビューを掲載して、情報をお知らせしております。

また、ネット、LINEでの情報発信としましては、子育てイベントの情報なんかをLINEで発信しまして、橋本市で暮らす魅力を積極的にお伝えしております。せんだって10月には、1時間市長体験クーポンというのを発行しまして、3名の小学生に橋本市の内容について実感していただきました。

それ以外に、住宅取得助成についても壇上でお話しさせていただいたんですが、この事

業については平成27年度から実施しております。転入夫婦住宅取得補助金を交付させていただいておるわけなんです、本年度、平成28年度では既に予算の満額、20件の交付申請があり、この議会で補正提案をさせていただく予定をしております。

きょうも実はお昼、相談に来られておる方がおまして、今ちょうど住宅取得のための借入金利が固定も含めてすごく安いので、今がチャンスと若い方たちが結構相談に来て、その中でも、この橋本市についてはそういった助成金が出るということで、なかなか周知しつつあるというふうな実感を受けております。

○議長（中本正人君）4番 今城君。

○4番（今城敏仁君）ありがとうございます。

そして、先ほどの答弁の中にもあったんですけども、空き家の利活用を促進してというところがあったんですけども、この空き家を利活用するのに、どのようなことをされますか。

○議長（中本正人君）経済推進部長。

○経済推進部長（笠原英治君）実際は、今までその空き家については建設部中心で空き家の状況について調査させていただいておりますので、その状況を見て、今後もっとさらにどういった活用があるのかということを検討していくわけなんです、具体的に進めておる事業としましては、先ほどグリーンツーリズムのお話させていただいたんですが、この中で、農家民泊に関する支援を行っております。

農家民泊につきましては、これまで全く本市にはなかったんですが、本年度積極的にPRして、希望者に対しまして設置の支援を行うことで2件の新規が認定されております。このうち1件はもう既に開設されておまして、芋掘り体験等を通して都市との交流の事

業を行っております。

以上です。

○議長（中本正人君）4番 今城君。

○4番（今城敏仁君）ありがとうございます。

本市、我々住む高野口も、かなり空き家が増えてございます。この空き家の利活用をして、そういうふうないろんな、それこそゲストハウスであったり、いろんな人が寄ってくるようなことをやっていけたらええなというふうに思っておるんですけども、そして、先ほどの答弁に、これは交流人口のほうやと思うんですけども、交流人口の増加の中で、パンフレットをもっとわかりやすく、インバウンドの方へのパンフレットをつくるということでございますけれども、これはどのような、今もつくっていると思うんですけども、どういふようなパンフレット等を考えておられますか。

○議長（中本正人君）経済推進部長。

○経済推進部長（笠原英治君）以前の議会でも何度かおたただしいたきまして、そのときにも回答させていただいておるんですが、前年度、外国人用のパンフレット、いわゆる観光パンフレットを作成させていただいたんですが、日本語をできるだけネイティブな英語に訳したわけなんです、日本語自体が非常に国語的なものでありまして、内容も本当に多岐に渡り過ぎておって、なかなかパンフレットとしておもしろみがないと、そういった意見もいただいております。そういうことから来年度につきましては観光客のターゲットを絞っていきまして、市内在住の外国人の方の意見なんかもしっかり取り入れて、パンフレットの作成に生かしていきたいというふうに考えております。

○議長（中本正人君）4番 今城君。

○4番（今城敏仁君）ありがとうございます。

前にも、26年の一般質問でも私したと思う

んですけれども、そういう市内またこの近辺にお住まいされておる外国の方、たくさんいらっしゃいますので、ボランティアで来ていただけたと思いますので、そのときはまたお声がけいただきましたら、ボランティアでいろいろと知恵をいただけたと思いますので、ぜひお声がけください。

それから、それこそ、これはあっち飛んだり行ったり、こっち行ったりするんですけれども、きのう、黒河道のシンポジウムもあったんですけれども、堀内議員が頑張っていたいるんですけれども、この黒河道は定福寺からの出発になるのかな。定福寺が起点となるみたいなんですけれども、やっぱり公共の交通機関で来れば、橋本の駅で降りると思うんです。今、観光協会の案内所あるんですけれども、どこかにやはりそういうふうな案内所みたいな、公共交通機関で来られた方、インバウンドだけじゃなしに日本の方も、橋本の駅でおりられた方が、そこを起点に動くというふうなところがあればなというふうな、この間、実は審査会のほうで傍聴に行っていましたら、その中で出たのは、室長もご存じやと思うんですけれど、あそこの池永邸のところをそういうふうな場所にしたらどうかとか、審査の委員の方から、そういうふうないろんな意見が出てたと思うんですけれども、車で来られる方は今後杉村公園のほうで、あそこに観光案内所等をつくる予定であるというふうなお話をお聞きしたんですけれども、やはりどこかそういうふうなところがないと、今の橋本の駅をおりますと、本当にこんなこと言うてええんかどうかわかりませんが、塾ばかりでございまして。本当に橋本のまちに来たら、これ、塾のまち橋本かなと思うぐらい、そういうふうな塾ばかりですので、何か駅前にそういうふうなものがあればええなと思うんですけれども、その辺のところはいかがでござ

いますか。

○議長（中本正人君）経済推進部長。

○経済推進部長（笠原英治君）橋本の駅前については、本当に京奈和自動車道のアクセスも非常に良くなったとはいえ、鉄道の玄関口になってこようかと思えます。特に、昔から高野山の入り口として、橋本駅、高野口駅というのは非常に知られておったと思えます。

そんな中で市長のほうから、駅前について、もっと何か地域と一緒に盛り上がって活性化していくような取り組みができないかということで、現在、観光協会におきまして、地元のアーティストをはじめ中学、高等学校の学生さんにも出演いただいて、基本毎月第3土曜日なんですがイベントを行っております。そういうパフォーマンスにあわせて、商工会議所をお願いしまして、地元の商店の出店であったり、農業されている農家の方をお願いして軽トラ市なんかも出店いただいております。今月12月には、市民ボランティア団体によりまして、クリスマスイブの日ハンドベル演奏、そういったイベントも予定しております。

そういうふうな、何か駅前を活気づけていこうということで新しい取り組みも含めて考えておるわけです。ただ、これは行政の一方的なやり方ではなくして、今、古佐田区の青年部なども協力いただけるようになってきておりますので、最終的には地元主導によるイベントにできればよいなというふうな考えております。商店事業者の出店につきましても、商工会議所、高野口商工会のほうをお願いをして、さらなる参加者を募ってまいりたいと考えております。

○議長（中本正人君）4番 今城君。

○4番（今城敏仁君）駅前にぎわいイベントなんですけれども、私も4月から11月までずっと行かしていただいているんですけれども、

そこでやられているので、ちょっと二点ほど気になることがございます。

一つは、車で行ったら駐車場がないんですね、基本的に。その問題と、ちょっと心安くなりまして、そうやって行ったら地域の方の声が聞こえてきまして、こうやってやっておるんやけども我々こへはいつも連絡ないんよと。うちの店の前へポスターでも張ってくれたらええのにな、というふうな意見も聞かれるんです。

やはり、地域の方が中心になってやっていただくのが本来やと思いますし、いろいろ企画をしていただいて、パフォーマンスであったり軽トラ市であったり、それはよくわかるんですけども、やはり中心になっていただく駅前の商店街、商工会の方にもうちょっと連絡というんですか、その辺のところをお願いしたいと思います。

それと高野口にも駅前がございまして、あれは高野口の駅前では、ああいうパフォーマンスといいますか、駅前にぎわいのイベントというのはやらないんですか。あれは橋本の駅前だけということでございますか。

○議長（中本正人君）経済推進部長。

○経済推進部長（笠原英治君）大きく二点、ご質問をいただいたように思います。

一つは、地元のかかわり、なかなか駅前の商店の方に周知できてないのではないかというお話ですが、先ほどもお話しさせていただきましたとおり、古佐田区の青年部などの協力もいただけるようになってきておりますので、随時地元のほうへその主導を持っていただけるように切り替えていきたいと思っております。

駐車場が少ないことから、できる限り公共の交通機関を利用していただけるように、現在のところはお願いしております。

チラシにつきましては、実は南海電鉄なん

かの協力によって、主要な駅にチラシの掲示なんかも実はさせていただいております。肝心の駅周辺の部分については、それは張り出されてないということやと思うんですけど、今後そういった駅周辺の店舗であったり、住宅であったり、そういったところにもチラシをしっかりと配布させていただきたいと思っております。

あと、高野口駅の関係なんですけど、決して高野口駅でイベントをしてないわけではありません。今年度になってからでも、葛城館の協力などを得てミニコンサートやデザイナーの作品展などの駅前イベントを、今年度は何回かやらさせていただきました。多分、今城議員も見に行っていたと思います。

高野口駅というのは比較的駅前スペースが広くて、駐車場も公民館とか高野口町の商工会の駐車場があって、非常に車で行くのも便利やと思っております。今後、高野口町の商工会であったり、あそこには商店街組合もありますので、そういったところの協力を得ながら連携を図って、すぐになかなか橋本駅前と高野口駅、交互にやっていくというふうにはいかんかわからんですけど、できるだけ協力いただきながら高野口の駅前でも実施したいと思っております。

以上であります。

○議長（中本正人君）4番 今城君。

○4番（今城敏仁君）ありがとうございます。

時間のほうのあれがありますし、DMOのことをもっと聞きたかったんですけども、また担当課へ行って、どういうふうなことで、どういうふうに進んでおるのをお聞きに行きますので、よろしく願いいたします。

そしたら、ふるさとづくりの推進ということで、これは教育委員会のほうでございませうかね。これ、去年の6月に、私ふるさと読本

のことでイレギュラーに教育長に質問しまして申しわけなかったんですけども、1番議員の質問にもございましたように、今年度で副読本をつくって、それをPDFに落として、タブレットで来年度から授業を進めるという認識でよろしゅうございますか。

○議長（中本正人君）教育長。

○教育長（小林俊治君）はい。そのようにしていきたいと思っています。

○議長（中本正人君）4番 今城君。

○4番（今城敏仁君）ありがとうございます。

やはり、この地域を知る温故知新といえますか、そして、温故知新から温故創新ということでやっていかんと、子どもたちの自分の今の立ち位置を、そういう文化・歴史を知ることによって知っていくというのは、一番大事なことであろうと思います。

そこで、きょうの一番の私のメインといえますか、質問なんですけども、今、ガンバレ！のまち橋本市、前畑秀子さんにちょっと隠れておるんですけども、岡潔先生、この岡潔先生の本を読んでおりますと、情緒教育の大切さというのが、どこの本を読んでもおっしゃっておられると思うんです。今この地域においては、小学校、中学校で情緒を育む教育というところで、どのような教育をされてございますか。

○議長（中本正人君）教育長。

○教育長（小林俊治君）私たち学校のほうで、一緒に共通理解というか意思統一していることは、まず、人権が保障された中での仲間づくり、学級集団づくり、そして、態度教育、そこから進めていこうということで共通理解を図っています。

情緒の教育というおただしなんですけども、基本的に、岡先生も数学の有名な学者さんです。全ての教育の中で、全ての教科の中で、情緒を育むというのが教育やと私は思っています

し、教育現場もそのようにとらえています。

例えば、国語の世界にあれば、国語の中で文章を読む、その中で情緒というものを心の中で育ませていく授業が本来の授業である。ただ単に芸術教科だけが情緒を育むのではなくて、全ての教科、体育であっても全てそうだと思います。仲間意識をつくっていくことも情緒を育むことになります。

先ほど、芸術教科といいますか、4教科についてちょっとお話しさせていただきましたけども、特に、音楽それから図画、美術になるんですが、それから技術・家庭、それから保健体育、このような部分については、特に子どもたちの情緒を育んでいく教科である。学級運営の、子どもたちが仲間集団としてしっかりできるのは、そういう教科が力を発揮したときに大いに学級集団としての力も発揮できるんじゃないか、そのように思っています。

○議長（中本正人君）4番 今城君。

○4番（今城敏仁君）ありがとうございます。

情緒という言葉、それぞれがいろんなイメージがあると思うんですけども、辞書で引いてみますと、物事に触れて起こるさまざまな心に深く感じることと。今、教育長おっしゃったように、いろんな場面でこういうことがあるというふうに私も思うわけでございますけれども、そこで、ちょっと話は時間のあれで飛ばんですけども、先ほど劇団四季のキャッツの話させていただいたんですけども、本物を見る、本物を感じる、五感で感じるのも、これ、情緒やと思うんです。我々この地域には四季が、冬場寒い冬を耐えて、梅の花が咲き、桜が満開になって、暑い夏が来て、各地で盆踊りがある。それが終わると、また秋は笛、太鼓の音が遠くから聞こえてきて、秋祭りがあって、また寒い冬に向かうと。この繰り返しで育まれる感情というのがすごく

情緒を、僕は自分自身もそうですけども、知らず知らずのうちに情緒がそういう、この四季の移ろいで感じられておるといふふうに思うわけでございます。

そこにまたいろいろと、いろんな質のいい刺激を子どもたちに何とか与えることができへんかなというふうに調べてましたら、せんだって26日に行きました劇団四季のほうで、ご存じの方もいらっしゃるかもわかりませんが、こころの劇場というのをメセナ事業でやられとるわけです。これは、和歌山市は2008年から、これは2008年から始まったんですけども、小学校6年生を対象に必ず小学校6年で、この本物の舞台を見ると。県の文化ホールで見るといふのが和歌山市の恒例の事業といたしますか、子どもに刺激を与える事業になっておるといふのでございます。

これ、先週の金曜日に、たまたま和歌山で関西エリアの劇団四季の営業部の方とお会いすることができまして、この橋本市でもそういうふうなことできへんかなというふうにお聞きしたら、やはり全国年間56万人の小学生の方がこの演劇を見られておるといふことで、来年ももういっぱいかなというふうなお返事、再来年やったらまた、これはそれこそ市長、メセナ事業ですのでお金は要りませんので、場所とボランティアの人があれば、日にちが合えば来てくれるという事業ですので、ぜひこのようなこころの劇場を、この当地橋本でも再来年から続けてずっと毎年6年生になればこの演劇を見て本物に触れるという機会を持たば、本当にある意味子どもたちのいい刺激になると思うんですけど、この辺のところは教育長ですか、市長ですか、どうでございますか。

○議長（中本正人君）教育長。

○教育長（小林俊治君）私のほうで答弁させていただきます。

きょうは、実はこの教育文化会館で、2階ですか、橋本中央中学校の生徒が「海難1890」を鑑賞しています。全員が見ています。今年は中学生対象に全員が「海難1890」を見ようということで、橋本市内の中学生も全員見させていただいているという状況です。

議員のおっしゃる劇団四季ですか、私も、この職になってからは見せていただいたことはないんですが、それ以前にはいろんな舞台を見せていただきました。極めて感動しました。先ほどから情緒というお話があって、やはり子どもたちがすばらしい芸術・文化に触れるというのは、子どもたちの情緒面について大いに発達に寄与すると、それを考えています。ただ、子どもたちの生活を見ますと、さまざまな行事、取り組みがございます。精査しながらやはり考えていって、議員お話の部分で言うならば、できる限りそういう状況が発生すれば積極的にそういう機会を設けていきたいと、そう思っています。

○議長（中本正人君）4番 今城君。

○4番（今城敏仁君）ありがとうございます。

ぜひ、こういうふうなものがこの橋本で行われて、毎年毎年来ていただいて、子どもが本物に触ればええなというふうに思いますので、ぜひ教育長、ご協力のほどをよろしくお願いしたいと思います。

補足ですけども、この和歌山県の私学審議会のほうで、奈良と和歌山にあります進学校の理事長さんが、そういうふうなのを見たことなかって、たまたま友人と行って見たらえらく感動しまして、ぜひ学生に皆見せたいというふうなことをおっしゃったそうでございます。

そういうことを今まで見れへんだ人ほど、すごく感動しますので、子どもがそういうものに触れたら、いろいろな刺激を受けると思

いますので、ぜひこういう、たまたまご縁あって、ゴーをかけれと言われれば、私また担当の方にお話しして、越えなければいけないハードルがございますので、その辺のところ、また市のほうへ来ていただいて、いろいろお話を聞かせていただきたいと。すり合わせをしていけたらいいなと思いますので、どうかご協力のほど、よろしく願いいたします。

それでは、時間のほうがございますので、これで1番目の質問を終わります。

○議長（中本正人君）次に、質問項目2、独居老人問題に対する答弁を求めます。

健康福祉部長。

〔健康福祉部長（石橋章弘君）登壇〕

○健康福祉部長（石橋章弘君）次に、独居老人問題についてお答えします。

東日本大震災の後、絆という言葉が脚光を浴びましたが、議員おただしのとおり、現代社会は人と人のウェットな関係を好まず、お互いに干渉しないのを良しとする傾向にあります。

本市では、独居高齢者に限らず支援を必要とする高齢者に適切に対応するため、いきいき長寿課・地域包括支援センターに、この4月から職員を1名増員しました。ここ数年増加傾向にある相談業務等に手厚く対応するためですが、虐待など困難事例は後を絶たず、財源やマンパワーに限りがある中、行政の力だけでは市民の皆さまの期待に応えることができません。

今後、少子高齢化がますます進行していく中で、地域における見守り合い・助け合いの社会の確立を考えなければ、地域社会は崩壊の危険性が極めて高いと言わざるを得ません。これは本市だけの状況ではありません。

現在、地域包括ケアシステムの構築を進めているのも、このような問題に対処するため

です。地域包括ケアシステムは地域づくりであり、高齢者が孤独死をしないような仕組みづくりです。

そのため、今年度は、地域づくりの勉強会を3回程度開催します。勉強会では、高齢者だけでなく地域全体として住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、地域コミュニティへの関心を高めていくことにより、地域における助け合いやつながり合いの仕組みを考えて実践していくことの大切さなどを理解していただくことが重要であると考えています。

○議長（中本正人君）4番 今城君、再質問ありますか。

4番 今城君。

○4番（今城敏仁君）ありがとうございます。

これ、高本議員が事細かく聞いていただきましたので、そんなに質問はないんですけども、先ほど質問のほうで申しましたように、今年の8月に、我々が住んでます高野口町の名倉のほうで1人の方が亡くなられて、8月の暑い盛りでございましたけども、1週間わからなかったということでございます。

そこは、かなり見回りですとか、いろいろやっっているがそういうことが起こったということでございますので、それこそ地域包括ケアシステムでいろいろとご苦労いただいて、日々いろんな形で市民のために頑張っているのはもう十分わかっております。ただ、この我々の高野口のまちなかで起きたということは、これはやはり高野口は都市型かなというふうに思います。

先ほど、それこそ孤独死って、あれは何年でしたか、無縁社会という言葉が2006年にNHKで放映されて、ユーキャンの流行語大賞の中の10番の中にも入ったところから、何か寂しいことばかりが、その無縁社会ということで我々受けていたんですけども、ここ

へ来て、この間、無縁から創縁へということで、豊中のほうで千里ニュータウンのほうですね、このほうで、無縁から創縁社会、創造するの創ですね。創縁社会へということで、いろんな取り組みが行われておるといのがNHKでやってみました。

私も昔、十何年か前に再織りの手織りで楽しむということで、手織り機をつくってやっておるのが、あれはどこかの新聞に載りまして、それを見られた千里ニュータウンの方が電話いただきまして、再織りって何なんですかということでお電話いただいて、そして手織り機と再織りの糸を持って、そこの千里ニュータウンの中の昔のスーパー跡で地域の方がそこでいろんなことをやられておるところへ行ったことがあります。

そのとき聞いたお話では、やはり戦後の高度成長期に、長男ではなく次男、三男の方が大阪へ出て来られて、あの地域で公団に住まれて、また住宅に住まれて、子どもさんが独立されて自分らだけになって、それこそ今の城山台であったり、あの辺がこれからそういうふうに、今もまあ城山台もそうかもわかりませんが、千里ニュータウンは10年前にそういうふうになってございます。

ですから、そこを見本にして、いろんな形でそういうふうな、地域包括ケアシステムもそうですけども見本になるところが多々あると思いますので、豊中の社会教育協議会ですか、いろんなさまざまなことをやられてます。ぜひ、その辺のところを、もうわかってるよとおっしゃるかもわかりませんが、いっぺん参考にして、この北部地域のベッドタウンの方の今後のあり方ですね。それを参考にして、生き生きと、よく昔から言いますように、ぴんぴんころりと逝けたらええなということで、それこそ人間というのは、生老病死、生まれた限りは老いて、病に倒れて、死んでい

くと。そのときはやはり、できたら認知症になって家族に迷惑かけてでも、このおじいちゃん、こんなんやっただけども、ええともようけあったなと家族に囲まれて死にたいものでございます。

そういう意味で、それまでいろんな形で地域包括ケアセンターでそういうふうな、学校区ごとで再度もう一回、そういう方のこういうことがあったので、区長さん、班長さん、また、民生委員さんに再度連携を、連絡をとっていただいて、このようなことのないようにもうちょっとアンテナ張っておいてよというふうなことを、部長、連絡していただけたら、聞くのと聞けへんのでは違いますので、ぜひよろしくその辺のところをお願いしたいと思います。

ちょっと端折ってまとまりのない質問になりましたですけども、これで質問を終わらせていただきます。

○議長（中本正人君）4番 今城君の一般質問は終わりました。

この際、3時20分まで休憩いたします。

（午後3時8分 休憩）